

（32）

## 「労働力の売買について」

九大助教授 近江谷 左馬之助

労働者階級的生活状態は、資本の機構が進むにつれてどのように変つてゆくか、という問題は経済学の上で重要な論点のひとつとなつてゐる。「資本論」第一巻第七篇第二十三章「資本制機構の一般法則」と題する章の中で、マルクスはこの点について論及してゐる。そして今日でもいわゆる「獨逸化法則」の問題としてこれをめづつてゐる。また本議論がなされてゐる。このいわゆる「法則」があるのに、資本主義のもとではなだ資本の實の機構をもたらずただけで労働者階級はむしろ獨逸化せざるをえない。労働者が生産すればするほど、労働者の生活は不安定化し貧しくなるといひえることとできる。こうした奇妙で不合理な現象はどのような理由に基づくのか、というのがこの「法則」の問題の中心なのである。

そしてこの理由をつきとめてゆけば、結局は資本家と労働者との階級關係が今日の社会の軸をなしてゐる以上である。今日では、生産の實際の担持者は労働者であるが、それだけの生産物も

れまでどのように理解されてきたか、またどのように理解すべきであるか、については新朝社からでている「マルクスの批判と反批判」の第二章においてその概要をつかむことが出来るであらう。それゆえにここではこの問題をいまいちどはじめから繰返して説明することは省くとして、

問題は要するに、こうなのである。資本の蓄積が増進して、資本家階級の富が増大するに反して労働者の生活状態は悪化せざるをえない。ほんらいは生産力の増進、生産高の増大は社会全体の生活や一般に福祉を高めるはずのもので

そこでまた資本家にとっては生産性を向上させて利潤を大きくするために、労働者を「節約」する機械を採用して、盲目に抱きこくこととせんで自滅のこととしてあらわれるのである。こうして生産力が増進し、資本の蓄積が進行するにつれて、企業から投出される失業者の数も一時的にはあるが、増大してゆく。そしてこれら失業者の圧力が労働者階級全体の生活状態を悪化させることになるのである。

このように、いわゆる「悪化化」といふことは、生産がそのもとでおこなわれる資本家と労働者との階級関係に根ざしたものである。

立上つたイラク人民

米英の侵略に世論を

七月十四日イラク人民は将校グループを中心に蜂起し、王制をたおして共和制を宣言した。カセム准将を首班に成立した新政府は、ただちにバグダード条約から脱退、アラブ連合共和国（エジプト・シリア）との友好を宣言するなど、イラク人民はいままでの奴隷イのクサリをたちきつてイラク人民、アラブ民族にとって記念すべき歴史的な日をもち立てた。

ソ連撤兵を決議

イラク新政府にたいして労働者、労働組合、一般官吏、教師、学生の諸団体から数千通の手紙がよせられ、イラク人民の勝利のようこびをせしめており、新政府との関係を強調している。

イラクは石油の国だが、この資源は英米仏オランダの資本ににぎら

は、レバノン人民の決起とイラクの革命のためにほとんど動れざつてしまつた中近東支配計画を、武力でたて直そうとするものである英國もこれについてヨルダン上陸、仏も軍艦を出動させている。

一方、ただちにひらかれた国連安全保障理事会では、この招集を求めた国は、今後とも、

米国の

世界の良心はこの米英仏などわき上つており、国連でも米英の侵略

いるか以下、声をひこつてみ

平和を破るは誰か

米国のアガキだ

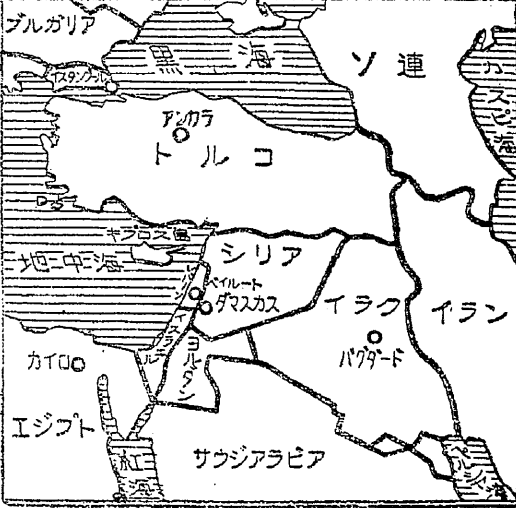
ニコッな偉略にたいして、世論が  
は弱地におちいる状態と見えなつ  
た。いして組合體はとうとうつて  
して宣言しました。

学習もはじまる

中興・船上情宣も危険に  
九歳勞の三十円カンパの決定など  
中興勞組の闘いは最勞全体の闘い  
へ發展してきた。中興の対策委員  
として現地で活動している辻総務  
部長より、さいきんの情動をつぎ  
のように知らせてきた。

法は、あるていど効果があるよ  
うです。  
それにまた、乗船場でビラを配  
していますが、昨日は島の組夫  
どなりこんできて、まったく困  
っています。

中興 ● 船上情宣も危険な



**労働者の感覚で消火を**

港務 一組合員

われわれは対岸の火車とは考えられない。それに革命ができたということは、いまの情勢では永続性があるかどうか問題があるが、イラクが資本主義國家との焦点となつてゐるのは事實だ。

アメリカの介入はあせりのアガキだ。国内問題として処置するものであり外国の介入はやめてもらふばかりはない。あらゆる平和の世論の結集によつて阻止しなければならぬと思つて、よくに総評の抗議はいち早くおこなわれたが時宜をえてゐると思つて、これは日本の政治的運動の高度さをしめすものだと思つてゐる。阿陣營の焦点であるということも労働者の感覚で消化しなければならぬだろ

資本主義の行詰り

資本主義が行詰りをきたし、全体的な世界の平和という歩調に逆行してでも、環海の行詰りを戦争で打開しようとするあらわれが、アメリカの姿であらう。国連との方針もくいちがつていゝし、これをなおかつやらなければならぬ、このような深刻な不景気の状態が、西歐陣營のなかでだんだんふかまって行きつづめるのだらう。

**世界の良心を封殺**

港 務 小山 国男

つねに戦争政策をやつておかないと資本家がコソツキまわされるアメリカ政府が、世界の良心にたいして抵抗にあいながらも、この政策をとらなければならぬというアメリカの悲劇がここにあらわれ

てゐる上思ふ。結局、資本主義の当然たるものではないならば、戦争といふものをささげることができないのを、まぎまぎと昇せつけられた。と云ふ権力が独占資本の柱としたかないことがはつきりわかつた。民族独立運動を反動電線と云ふことばで、世界の圧倒的良恥を無視して封殺しようとするアメリカの行動に憤りを感ずる。同じ有色人種の日本人としてもハツキリした態度を打出すべきである。民族独立運動を推進する立場をとらねばならない。ハンガリーにソ連が侵入したという宣伝と対照的である。